

Micro Mediaを用いた パーソナライズ情報収集支援システムの提案

澤田瑞穂[†] 戸田健[†] 尾崎信耶^{††}

[†]日本大学理工学部電気工学科 ^{††}日本大学大学院理工学研究科電気工学専攻

■目的

ユーザの人物情報をシステムが把握することでユーザの潜在的な要望を引き出す支援を行う。

■課題

WEBが普及した事で、立場を問わず情報の発信が可能になり、WEB上の情報が増加した。一方でこの膨大な情報の中からユーザが**所望の情報**を得るスキルはまだ**不足している**。

そこで、TwitterやSNS、Blog等のマイクロメディア上の**発言から人物情報を作成**することで**ユーザの状況をシステムが把握**すれば、ユーザの検索を支援できると考えた。

■システム概要

- **述語の種類からユーザの嗜好や状況を判断できると考え**、提案システムではユーザのマイクロメディア上での発言と予め用意した述語辞書を用いてユーザの人物情報を把握・蓄積し、情報収集支援を行う。

■システムの動作

1. TwitterやSNS、Blog等のマイクロメディアからシステムが発言を収集し、テキスト解析をして**述語と目的語**を抽出する。
2. 予め述語を選出し、スコアを持たせた**[事前選出 述語辞書]**を用意している。抽出した述語が先に用意した辞書に含まれていれば、辞書中の述語に与えられたスコアを抽出した**目的語**にスコアを与える。
3. この名詞のスコアを基にランキングを作成し、ランキングから検索語を生成したり、検索結果のパーソナライズを行う。**このランキングがユーザプロフィールとなる**。

■述語辞書について

1. スコアの決定は、単語感情極性に関する研究を参考にする。
2. 口語や俗語に関しては関連研究を参考に単語を追加する。

■課題

1. 文型パターンによる意味の認識
2. 主語の不一致

発展：GPS情報や発言時刻に合わせた情報の提供する。

■参考文献

- i. 高村大也, 乾孝司, 奥村学“スピンモデルによる単語の感情極性抽出”, 情報処理学会論文誌ジャーナル, Vol.47 No.02 pp. 627-637, 2006.
- ii. 池原悟“非線形言語モデルによる自然言語処理”, 岩波書店.

■提案システム

